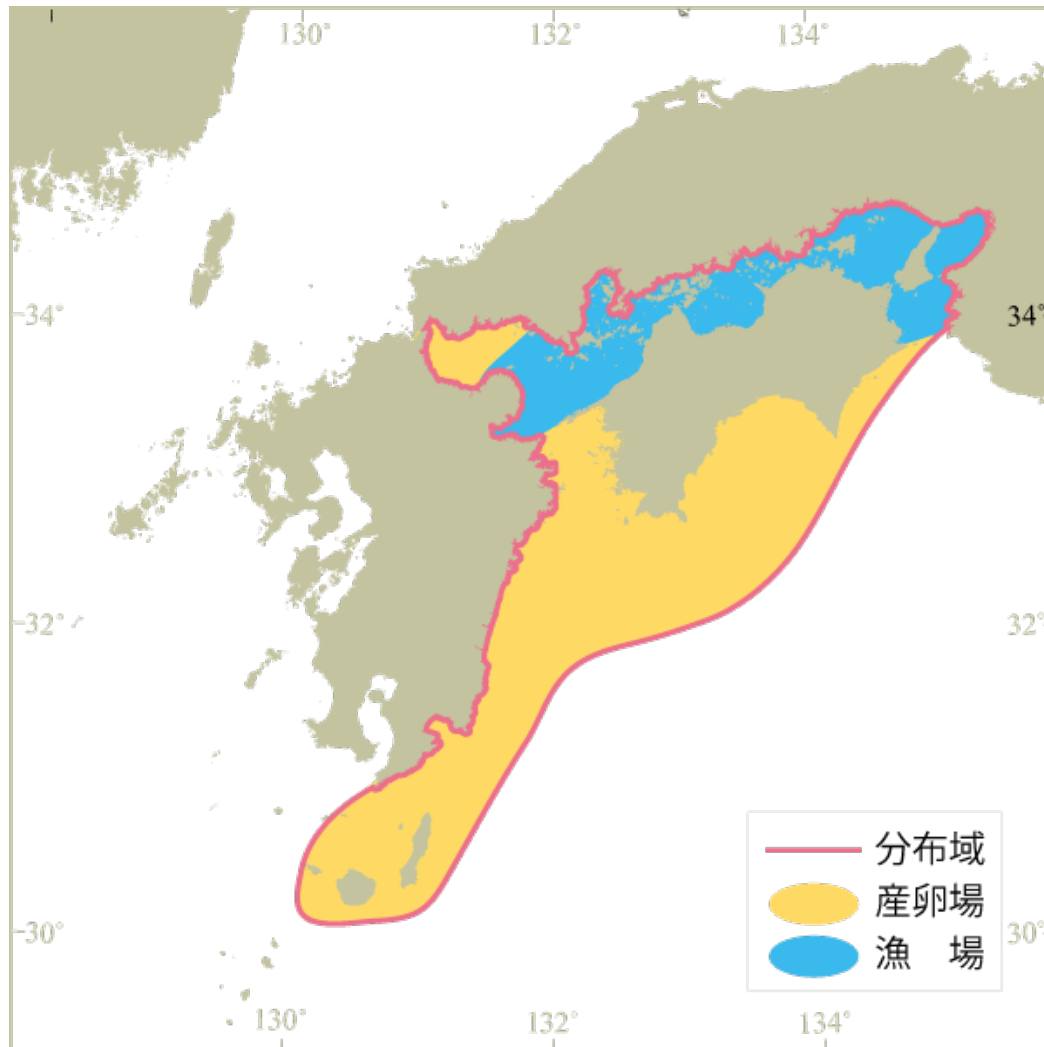




カタクチイワシ瀬戸内海系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

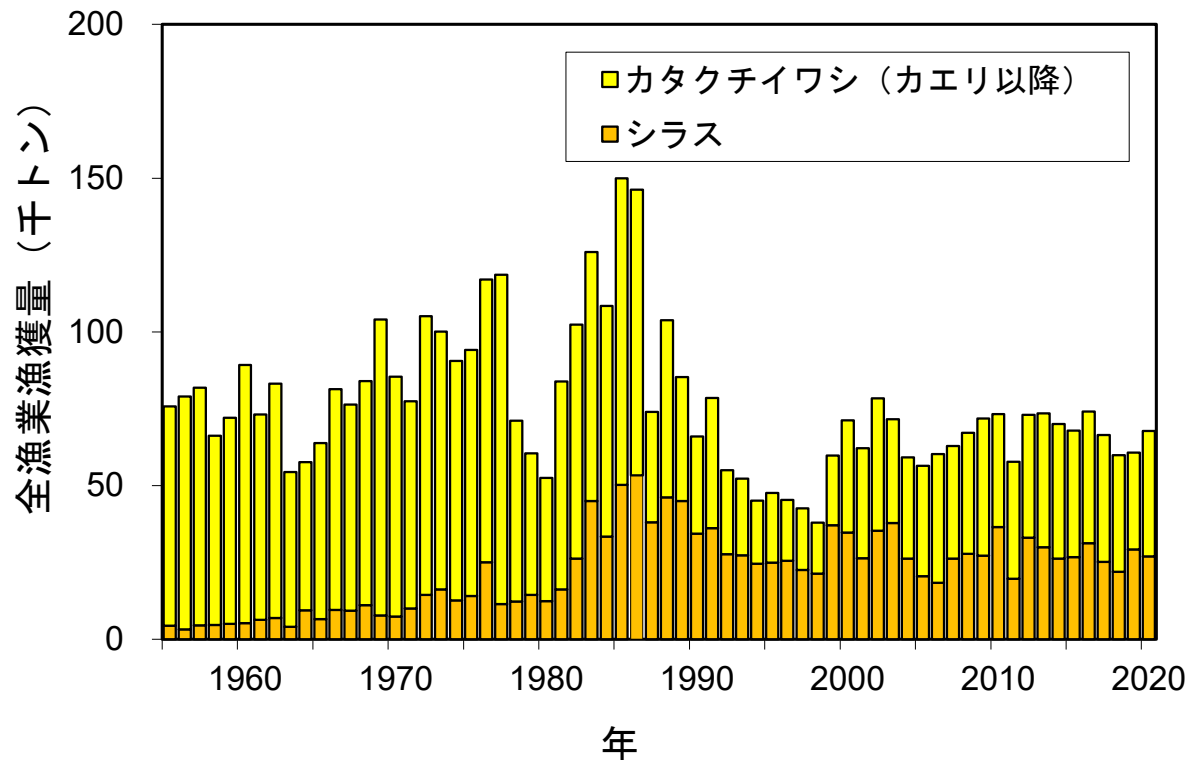


生物学的特性

- 寿命:2歳
- 成熟開始年齢:
5月齢(55%)、6月齢(80%)、
7月齢(95%)、8月齢(100%)
- 産卵期・産卵場:
ほぼ周年(主産卵期は5~10
月)、薩南海域~紀伊水道外
域、瀬戸内海全域
- 食性:
カイアシ類などの小型甲殻類
- 捕食者:
サワラ、スズキ、サバ類、タチ
ウオなどの魚食性魚類

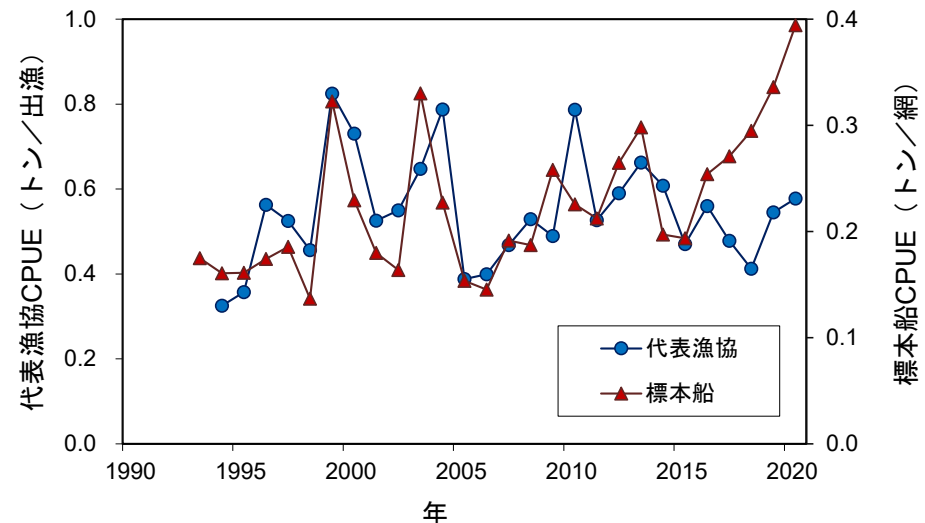
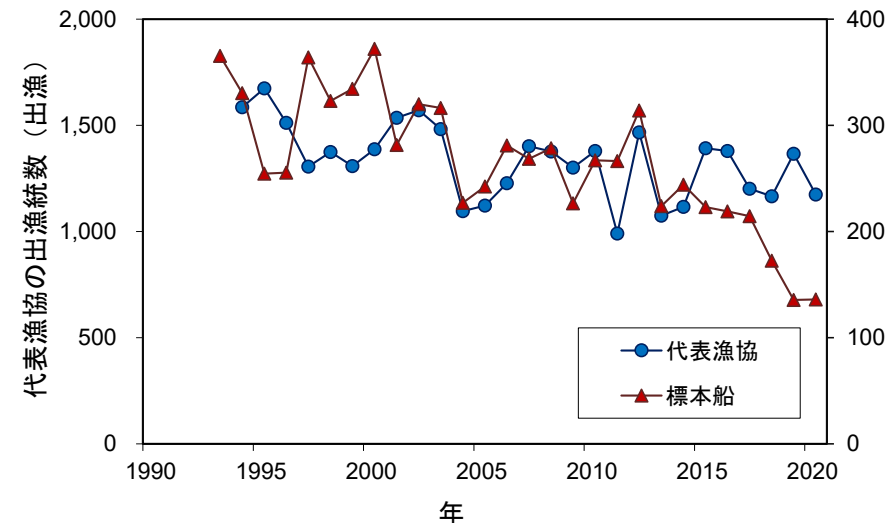
・ 操業期間は外海に近い海域ではほぼ周年、瀬戸内海中央部では春から秋

漁獲の動向①



- 2020年（1～12月）の漁獲量：68千トン
（2019年：61千トン）
- 1980年代後半から1990年代にかけてカタクチイワシの漁獲量が減少する一方で、シラスの漁獲量は1980年代に急増

漁獲の動向②



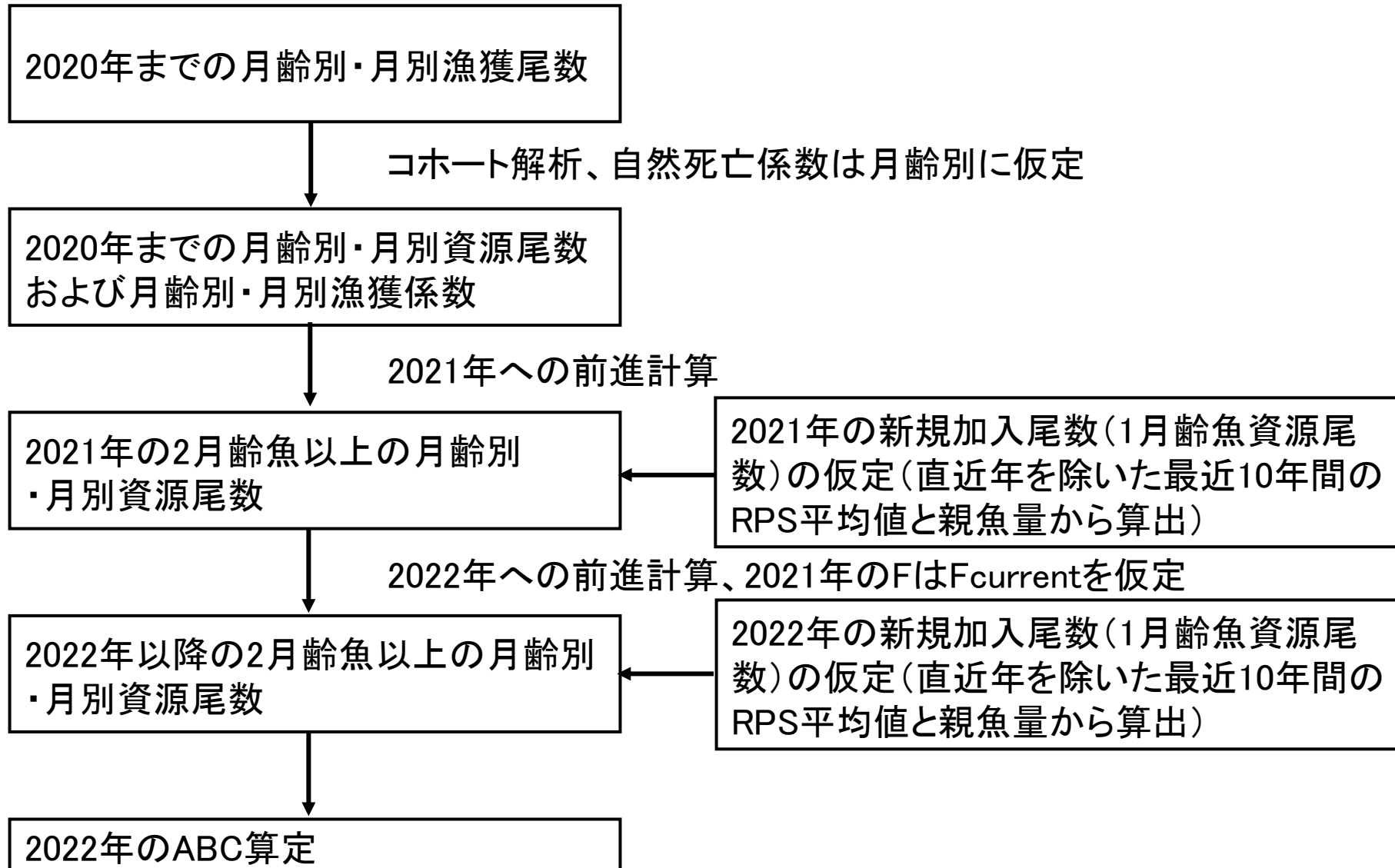
- シラスを漁獲対象とする船びき網漁業の代表漁協の出漁統計数は2004年以降横ばい、標本船の操業回数は減少傾向
- 標本船のCPUEは2007年以降、増加傾向、代表漁協のCPUEは2017～2018年に減少した後、2019～2020年には増加

※出漁統計数：1漁協における年間出漁回数

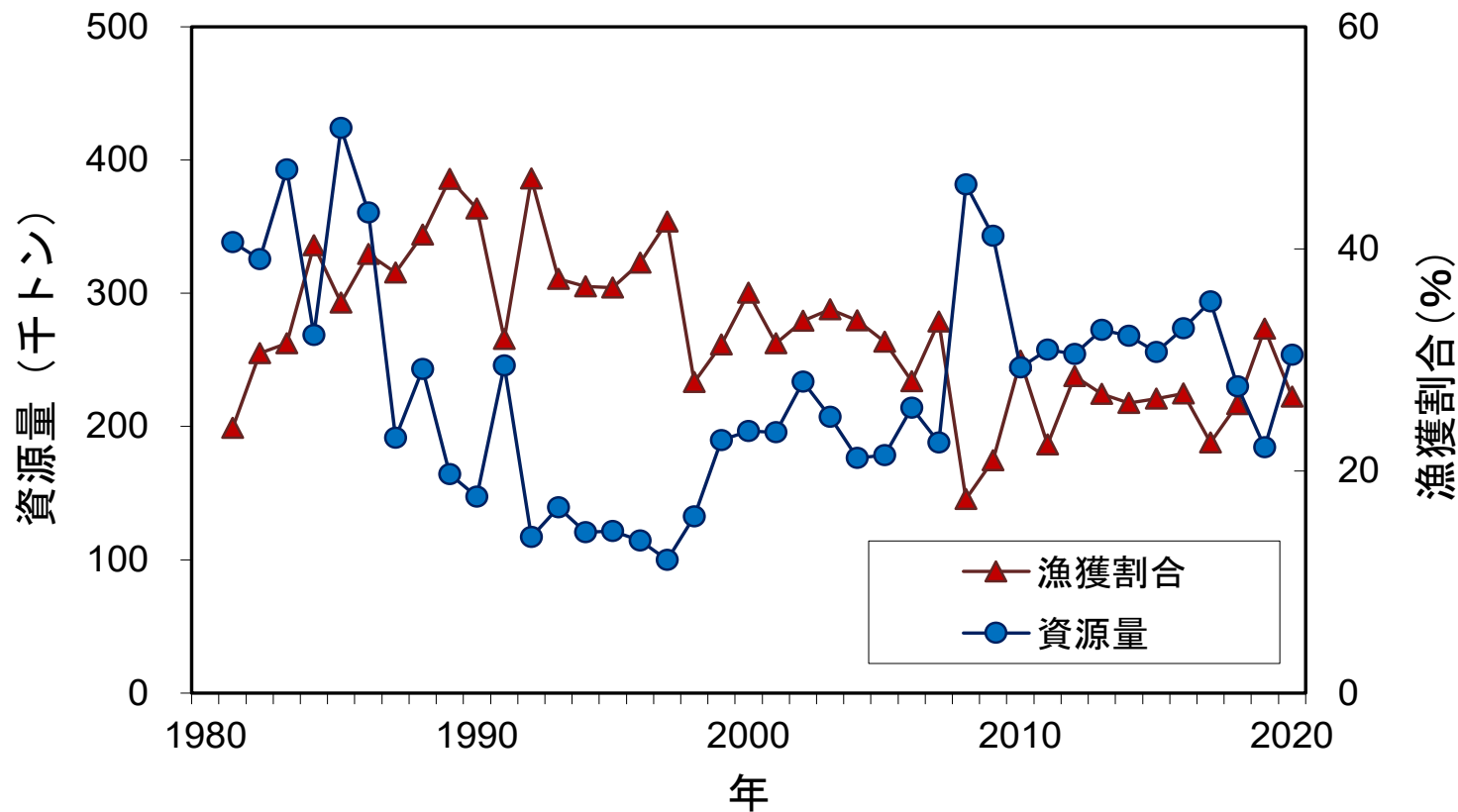
※操業回数：1標本船における年間曳網回数

※CPUE：1出漁当たりの漁獲量、もしくは1網当たりの漁獲量

資源評価の流れ

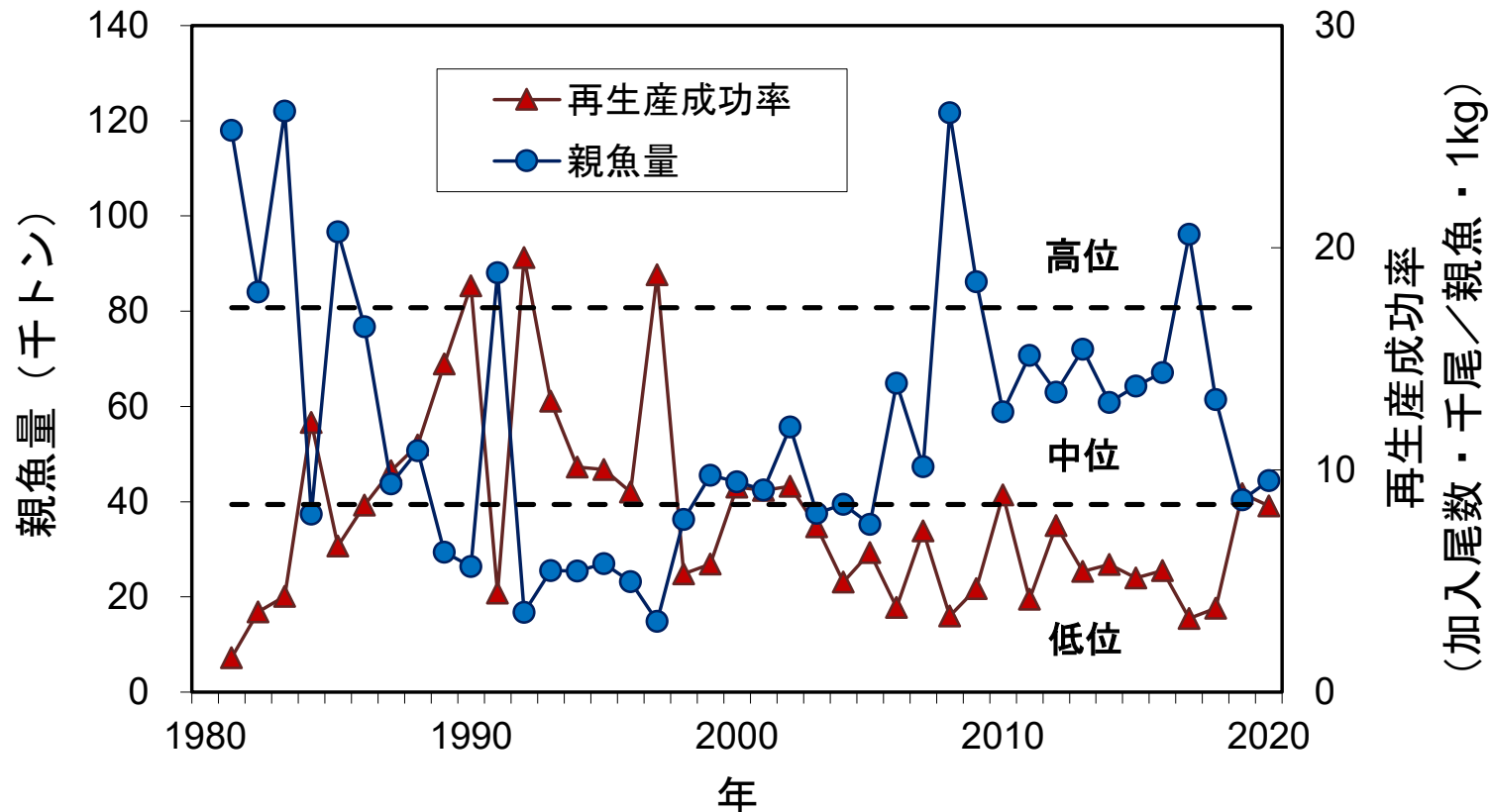


資源の動向①



- 資源量：1985年に最大、1997年まで減少傾向、その後増加傾向
- 漁獲割合（漁獲量／資源量）：1980年代後半から1990年代前半に高かった

資源の動向②



※水準区分 低位/中位：親魚量39千トン、中位/高位：親魚量81千トン

- 親魚量：1981年以降で見れば2010年以降は比較的安定
- 資源水準：2020年の親魚量44千トンから「中位」
- 資源動向：直近5年間の親魚量の推移から「減少」
- 再生産成功率：2004年以降は比較的安定

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は減少
- コホート解析による親魚量に基づいて資源状態を判断した

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
Fsus	Target	128	27	0.79 (-21%)
	Limit	106	31	0.99 (-2%)

- Fsus : 中長期的に現状の親魚量水準を維持する漁獲圧